

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は職員が常に目に入る場所に掲示しています。毎月の会議時チーム全員で読み上げ確認しています。年1回個々に振り返りシート記入してもらい今後の方向性を見直しています。	運営理念は玄関正面に掲示されており来訪者にもわかるようになっている。合わせて月1回の職員会議の席上で読み上げを行い、共有と実践に繋げている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明をしている。また、新入職員に対してはオリエンテーションの中で理念の説明と合わせ施設の成り立ちについても説明している。更に、法人内の特別養護老人ホーム等の施設より異動して来た職員に対しては地域密着のグループホームについて細かく説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや小中学校との交流会等はコロナの影響で現在中止していますがお手紙等の交流は行っている。今後コロナの状況の動向で実施できるように考えていきたい。	昨年の春以降新型コロナの影響を受け地域との交流活動の自粛が続いている。そのような中、出来ることについては感染予防対策をしっかりと実施している。運営推進会議メンバーである民生委員より野菜やリンゴの差し入れを頂いている。合わせて地域の「食事改善」のグループが来訪し利用者と共に食事作りを行っている。また、専門学校生の職場実習の受け入れも行き、2校の学生が延べ3日間、6名が来訪し傾聴中心に利用者との交流の時間を持っている。月1回実施していた泉平地区のカラオケクラブもコロナ収束後には地域包括支援センターと連携して再開する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民への新聞の配布は毎月配布している。カラオケクラブは実施していたがコロナの影響で中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの関係で書面会議で開催している。2か月に1回組長、地域衣料品店主、地域住民、民生委員、安心相談員、地域包括支援センター職員、市高齢者福祉課職員、家族会など地域の方に参加して頂き様々な意見や助言を頂いている。	新型コロナ感染前は2ヶ月に1回、家族、地域の方々、市職員等の参加を得て運営推進会議を行っていたが、現在は新型コロナの影響を受け書面での開催となっている。ホームの日々の様子については行事内容写真に添え、また、新型コロナの感染予防対策について、行事報告、その他連絡事項等を書面にしお届けしている。合わせて意見、質問票を同封し、意見・助言などを頂きサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターには地域との交流等相談に乗って頂いている。安心相談員月1回来訪していたがコロナの影響で中止している。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームで行っている。	地域包括支援センターとは「カラオケクラブ」「サポーター養成講座」等、地域との交流活動を中心に連携を取り協働している。市高齢者活躍支援課とは事故報告等必要事項について報告相談を行っている。あんしん(介護)相談員の来訪も現在は中断されているがコロナ収束後にはまた再開する予定である。介護認定の更新調査は調査員がホームに来訪し職員が対応し実施している。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃からさりげなく見守り安全確保に努めている。年1回法人主催の身体拘束勉強会に参加し意識を高め拘束のないケアに取り組んでいる。	基本的に拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。現在、1年以内に入居された方が三分の一強おり、そのうち数名の方が帰宅願望が強い状況にあり一人ひとりの状況に合わせて一緒に横に座り落ち着くまで話をしている。利用者を一人にしないことを徹底し、洗濯物たたみ等興味のあることをやっていた。また、きめ細かな所在確認を行い安全確保に努めている。転倒危惧のある方がおり家族と相談の上、センサーマット使用する方が若干名、足元センサー使用の方が三分の一ほどいる。月1回の会議の中で「スピーチロック」等の事例を基に話し合い、「不適切ケア」等、身体拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に学習会を実施している。馴れ合いの言葉や不適切ケアなど言葉の虐待にならないように注意している。会議の時チームで話し合い対応を考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度に該当する利用者はいないので話し合いはしていませんが地域密着型サービス研修会に参加して学ぶ機会がありました。今後内部研修等で職員にも指導していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明、理念やサービス内容・個人情報の取り扱い、重度化対応に関する指針等理解や納得がいくように十分説明し同意を得ている。解約時等も今後の方向性を理解納得いくまで話し合いをし相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望等は傾聴し日常会話の中からくみとるようにしている。コロナの影響で面会中止の為ご家族には近況報告の際電話で要望等伺うようにしている。	ほとんどの利用者が意思表示の出来る状況であり、話を聞き要望を受け止めるようにしている。家族の面会は長い間コロナの影響を受けオンラインの面会のみとしていたが10月11日より面会が再開され「マスク、検温、消毒、換気」という感染対策を行い、事前予約制で15分間ほどの面会を行っている。そのような中、日々の様子は毎月発行される「泉平ファミリー新聞」でお知らせし、利用者一人ひとりの様子は担当職員や管理者より写真を添えた手紙をお届けし喜ばれている。年2回行っている家族会も実施出来ない状況が続く残念であるが、一日でも早いコロナの収束が待たれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー、サブリーダー会議の際に提案や希望を出して検討し月1回の職員会議時議題に上げてチームで検討している。	月初の水曜日の午前中に職員会議を行っている。事前にリーダー、サブリーダー会議を行い「悩み事」「困っている事」等の議題を検討し職員会議に臨み、業務の見直し、行事の内容検討、カンファレンス、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。また、年2回、所長と管理者による個人面談が行われており意見等を吸い上げる機会となっている。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断、細菌検査、ストレスチェックを実施している。健康診断の結果を踏まえて産業医に相談できる環境がある。働き方改革で労働時間、年5日以上有給休暇取得できるように働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回の法人全体会議で勉強会に参加している。また外部研修に参加した際は復命報告を会議で実施している。リーダー会等でケアの質を向上させていけるよう定期的に検討しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内グループホーム連絡会に加入し同業者との交流はコロナの関係でできていないが運営推進会議等での意見を参考にサービスの資質向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い生活する上での意向、要望等を聞いて確認している。施設内を見学していただき納得した上で安心してサービスが受けられるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月お手紙を出して担当、リーダーより最近の近況を添えて情報共有している。体調変化あった時だけでなく普段の生活の中で相談したい時は家族に連絡して話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に家族と本人に面接を行いしっかりと把握した上で対応に努めている。また変化がみられた時には本人、家族の思いを確認し安心してサービスが受けられるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩であるということを意識してお互い協力しあい共に支えあえる関係づくりに努めている。また一人一人役割をもち活躍できる活動を考えて参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染症で面会は中止しているが電話で会話したりお手紙を書いたり絆を深めている。家族から希望時オンライン面会も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響でなじみの人に会ったり外出したりすることは中止しているが電話、手紙、オンライン面会などをして関係が途切れないように努めている。	例年であれば友人や親戚の来訪があるが、現在は新型コロナの影響を受け中止となっている。合わせて併設のデイサービスやショートステイとの交流も自粛状態になっており収束後にはまた再開する予定である。職員が手伝い、年賀状や暑中見舞いを作成して家族にお届けし喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の関係も大切にしている。関係が築けるような場面づくりやトラブルを防止する働きかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動されても面会に行く機会を作ったり電話または文書で近況を聞いたりしている。コロナの影響で面会は実施できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望を会話の中から変化に気づきチームで本人の意向の把握に努め会議等で検討している。	1対1で話をする時間を大切に、興味のあることについては積極的に取り組んでいただくようにしている。洋服選び等は職員が提案して選んでいただくようにしている。更に、誕生日の食事についても希望を聞き、好きな物を提供するように心掛けている。また、浴室が広いこともあり、利用者同士声を掛け合い2人で入浴を楽しまれる方もいる。4月より業務の見直しを行い日々の気づいた事柄については業務日誌の中に申し送り事項として纏め、出勤時に確認し業務に入るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で趣味、意向など聞いて想いを把握につなげています。また日々の関わりの中で希望に沿った暮らしができるようにその都度検討しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の身体状況、毎日のバイタル測定、健康チェックをして必要時カンファレンスを実施し支援方法をチームで考え検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス時利用者様個々の状態観察を踏まえて支援方法をチームで考え本人からは日々の生活の中から思いを聞きプランに反映できるように支援している。	職員2名で3名の利用者を担当し、居室管理、不足物の補充、個人別お便りの作成等を担当している。担当者は日々の様子を把握し、月1回のカンファレンスでモニタリングを行い、管理者とケアマネージャーがケアプランの作成を行っている。家族に対しては現在は電話にて説明を行い、プランを郵送し希望をお聞きしている。入居時は暫定プランを作成し様子を見、1ヶ月後に本プランを作成して支援に繋げている。短期目標6ヶ月、長期目標1年で取り組み、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、日々の生活に関すること、職員の気づき等個別記録、支援経過記録に記録し職員間で情報を共有しプランに反映しています。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の急変時はご家族の要望をお聞きし柔軟な対応を心がけています。通院や送迎等は家族の要望をお聞きして臨機応変に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で地域のボランティア等は中止している。小学校との交流会も中止しているがお手紙や作品をプレゼントしての交流は行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療を行っている。病状、家族の希望時担当医と相談の上かかりつけ医へ受診している。緊急性の場合は病院と連携して受診を行っている。緊急時や移動介助が困難な場合は送迎を行っています。	現在、全利用者が2週間に1回の協力医の往診を受け、24時間対応が可能となっている。合わせて契約の訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理と医師との連携が取られている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え月4回訪問看護サービスも実施。健康管理、医療面を相談して24時間体制で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携はとれている。利用者の入院時は家族、医療機関ソーシャルワーカーと密に情報交換し早期に退院できるように関係づくりに取り組んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取り対応については利用契約時に説明し同意を頂いている。また重篤期はかかりつけ医、家族と相談協議し今後の方向性を共有している。職員の看取りの研修会も計画していたがコロナの影響で実施できていない。	重度化、終末期に対する指針が有り、利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。現状介護度が4以上になり食事、入浴が難しい状況に到った時には家族、医師、看護師、ホームで話し合い、医師より説明をいただき、併設の特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援に取り組んでいる。そのような中、家族の希望により医療行為を必要としない状況でホームでの看取りを希望された場合、家族の協力を頂くことを条件に医師、看護師と連携を取り、看取り支援に取り組んでいる。開設以来7名の方の看取りを行い、家族より感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って緊急時にも速やかに対応できるように備えている。定期的に緊急連絡網の訓練を行っている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の施設と地域住民と防災協定を結んでおり合同で防災訓練を行っている。災害時に備えて非常食、飲料水、防寒物品を用意している。	コロナ禍のため、複合施設内のみで防災訓練を行っている。火災想定避難訓練を行い、利用者は「名前、歩行状態、連絡先」を明示した名札を首から下げ玄関先まで移動しての訓練を行っている。また、春先には新入職員を中心に防災機器の点検確認、消火訓練、通報訓練なども行っている。合わせて緊急連絡網の確認訓練を定期的に行い、防災への意識を高め取り組んでいる。備蓄は「お米」「水」「カレーを中心としたレトルト食品」などが3日分準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちや想いを組み取り、寄り添う言葉掛けを心掛けている。不適切な声掛けにならないよう職員個人個人の資質向上に向けて、内部でのケア研修を行っている。またプライバシーの確保に注意し面会は、居室でのオンライン面会を行っている。	出来るだけ多くの話を聞く機会を設け、不適切ケアのないよう言葉掛けには特に気配りをし気持ち良く過ごしていただくようにしている。また、家族の面会時にはパーテーションで区切り、面会のない方がやきもちをやかないよう気配りをしている。合わせてトイレ介助の際には人前で大きな声でお誘いしないよう徹底している。呼び掛けは苗字に「さん」付けでお呼びし、入室の際にはノックと声掛けを忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外出の声掛け等、1人1人の状況や思いを大切にしながら決定している。自己決定が難しい利用者には、ゆっくりと自分の想いが見いだせるよう見守っている。また、活動内容やバイキングでのメニュー等に自己決定出来る場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、その人の希望や思いを尊重しながら、散歩、畑仕事にも参加して頂いている。特に入浴は気の合う仲間とゆっくり入って頂いている。廊下にはソファを置き自由に会話できるスペースも用意してある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年齢を重ねてもいつもきれいでいたいと願う気持ちを大切にしている。好みの洋服を自由に着たりこまめに衣類の洗濯をし、清潔を心掛けている。髪のカットや髪染めも本人の希望に合わせて訪問カットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的な会話から食べたい物をお聞きし畑から収穫したばかりの野菜や、旬の食材、国産品にこだわり希望のメニューを提供している。食事の下ごしらえや後片付け等出来るお手伝いをお願いしている。また、バイキングやおやつ作りに利用者も参加したり、作り方の指導をしてもらっている。	ほとんどの利用者が見守りをうけながらも自立という状況である。現在はコロナ禍でもあり職員は別テーブルで食事を摂っている。献立は前の献立を参考にダブらないようにし、職員が利用者の希望も聞きながら季節の素材も加味し調理している。利用者はお盆拭き、テーブル拭き、床掃除等に積極的に参加している。誕生日には希望を聞き好きな物を提供しているが、時折、希望で「かつ丼」をテイクアウトして楽しんでいる。	

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態(きざみ、トロミ)や身体状況(血糖値、体重増加予防)に心掛け提供し、食事摂取量をチェックし記入、飲み物は多種類用意し適切な水分摂取が出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を日課とし、食後の歯磨き実施、必要な方には、磨き残しがないよう介助で行っている。個々に合った磨き方の工夫、口腔状態の変化に気付くよう観察している。定期的に歯ブラシ、コップの消毒も行っている。。定期的に歯科に往診して頂いている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声がけでトイレ誘導したり、排泄表に記入し排泄状況の把握に努めている。失敗されても自尊心を傷つけないように処理している。特に日中と夜間のパットの大きさを調節して睡眠不足にならないようにしている。昼間は布パンを使用し、出来るだけオムツに頼らない生活をして頂いている。	一部介助の方が大半で全介助の方が若干名という状況である。起床時、食事前、おやつ時、就寝前等に定時の声掛けを行うと共に排泄表を用い一人ひとりのパンを把握し、それに合わせさりげなく声掛けを行いスムーズな排泄に繋げている。また、排便促進を図るべくお茶を中心に牛乳、風呂上がりのスポーツドリンク等、1日の水分摂取目標1,000cc以上に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の確認が取れば排泄表に記録している。散歩や室内歩行、ストレッチ運動など取り入れたり便秘予防に牛乳や果物も提供している。水分や献立にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日となっているが都合で入浴出来ない場合は他の曜日に変更し実施している。また、不公平にならないよう日替わりで順番を決め、気の合う同士と一緒に入られるよう工夫している。また、季節によって「ゆず湯」「菖蒲湯」等も楽しんでいる。	全利用者が何らかの介助が必要な状況となっており、安全確保のため職員2名の介助で事故のない入浴に努めている。基本的には週2回の入浴を行い、希望で3回入浴される方もいる。広い浴室を利用し気の合う利用者同士が誘い合い2名で入浴を楽しむこともある。また、夏場の天気の良い日には足浴用のバケツや子供用のプールにお湯を入れ外での足浴も楽しんでいる。更に、「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後はなるべく休んで頂くよう声がけしているが本人の思いに応じている。本人が望む寝具、ベッドの状態に配慮し、必要に応じて冷暖房の対応もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時名前と日付を確認して本人に渡し内服するまで見守りしている。また薬についての相談はかかりつけ医に相談している。利用者に説明し家族にも薬の内容を定期的に送付している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのお願ひできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。毎日当番を決めて食事の挨拶やテーブル拭きをして頂いている。趣味を生かしての作品作りやクラブ、季節の行事を考えて楽しんで頂いている。		

認知症高齢者グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、地域の催しや外出、家族との外出や外泊も出来ない状況下にある。利用者の方達にも出来る限り説明し、納得して頂いている。畑の草取りや縁側気分での玄関先での外気浴を楽しんだり、できる限りの催し物に参加している。(豊野町復興花火)	室内では自力で歩ける方が多いが外出時は車いす使用の方が三分の一おりシルバーカー使用の方も数名いる。日常的に天気の良い日には施設の敷地内を散歩したり玄関前のベンチに腰掛けお茶を飲みながら外気浴を楽しんでいる。コロナ禍が続く外出レクリエーションが出来なかったが、10月11日以降、首都圏の緊急事態宣言解除に合わせ感染レベルが2以下になったので計画を立て紅葉見物を兼ねたドライブに出掛ける予定であるという。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が必要な物や希望する物があれば家族に連絡し、買わせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から贈り物や手紙が届いた時には、お礼の電話を入れ、本人の希望も聞き電話に出て頂いている。遠方の家族へ送るハガキは職員が投函している。今は面会が出来ない為、希望リモート面会を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室に神棚、床の間に掛け軸など飾って家庭に近い雰囲気を感じて頂いている。玄関先には壁画を飾り四季折々の季節感を取り入れている。毎月GH新聞を掲示し、誕生日や催し物の写真を貼りだし楽しんで頂いている。共有スペース、居室においては掃除を徹底し、気持ちよく過ごして頂けるよう清潔を心掛けている。	陽当りの良い玄関先には利用者が外気浴を楽しむための木製のベンチが備えられ、のんびりと過ごせるように環境が整えられている。掃除が行き届き清潔感のある共用部分には利用者が制作した四季折々の壁画作品や行事の様子を映した写真等が数多く飾られ、コロナ禍の中でも積極的な活動をしていることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつ以外にも自由にリビングで過ごされていたり、各居室にお邪魔して仲間同士でおしゃべりをして、思い思いの時間を過ごして頂いている。ソファに座り職員との会話も楽しんでいる。定期的に席替えも行い、皆さんと満遍なく会話が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の気持ちに合わせて自宅から持って来て頂いた馴染みの物や思い出の写真など飾り、植物を育てるなど、本人に合った工夫をして居心地良く過ごせるようにしている。	開設から18年目を迎えた当ホームであるが、日々の整理整頓掃除が行き届き、清潔感あふれる温かみのある居室が作られている。各居室には洗面台とクローゼットが備え付けられ暮らし易さに配慮がされている。持ち込みは家族と相談の上、使い慣れた家具、イス、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や自分の作品等に囲まれ思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには大きな文字でわかりやすく表示し、居室は本人にわかる目印をつける等工夫をしている。		